

独自のネットワークで地域の発展に貢献する、住まいづくりのベストパートナー

株式会社丸産業 奈良県橿原市

株式会社丸産業は、奈良県屈指の住宅建材・設備機器の商社で、今年で会社設立後 60 期目を迎えている。200 社以上に及ぶ住設建材メーカーとの強固な信頼関係から、“丸産業に頼めば、手に入らない商品はない”といわれるほどの幅広い品揃えを誇っている。その原動力は、毎年春と秋に主催する展示会だ。住宅業界の主要メーカーが最新の住宅建材や設備機器を出展、地元の工務店や施主を含め数千人規模の来場者を集め、活発な商談が行われる舞台となっている。

同社は文化・スポーツの振興にも積極的に取り組み、奈良クラブやバンビシャス奈良に協賛してきた。吉野川沿いに所有していたビルをサテライトオフィス＆コワーキングスペース「YOSHINO GATEWAY（吉野ゲートウェイ）」に改装、地域活性化にも力を入れている。

同社はこれからも地域社会と手を携えて、住まいづくりへの支援を惜しみなく続けていく。

会社概要



会社名：株式会社丸産業
所在地：奈良県橿原市曽我町 32-2
電話：0744-22-4390
FAX：0744-22-6533
設立：1963（昭和 38）年
代表者：代表取締役社長 丸 敏幸
資本金：4,500 万円
従業員：151 名
事業内容：住宅建材、住宅部材、設備機器の販売および施工
URL：<https://www.marusangyou.co.jp/>



同社本社の外観

住宅業界をもっとより良い業界に

工務店や販売店向けに住宅用内装材・外装材、設備機器、サッシ、木材銘木等の販売を手掛ける株式会社丸産業は、創業 1962 年 4 月、設立 1963 年 7 月で、今年で設立 60 期目の年だ。創業当時は大阪市内で建築資材の卸売業を営んでいたが、3 年ほどして拠点を奈良県橿原市に移した。

同社は 4 つの“わ（和・輪・環・話）”を理念に掲げ、住まいづくりへの支援に携わってきた。千を優に超える販売先を有し、取引先の間では“丸産業に頼めば、手に入らない商品はない”が定評になっているほど、同社の最大の強みは幅広い品揃えといえよう。近畿全域を網羅する 8 つの営業所で、顧客の要望にいち早く応えられる体制を構築している。工務店や販売店を交えて定期的に勉強会を開催するなど、実践的な商品知識の共有にも余念がない。原材料価格高騰などの影響を受け、サプライチェーンが不安定な状況にあるが、これまでの仕入先との強固な関係を礎に、供給者としての責任を果たしていく決意だ。

現社長の丸敏幸氏は 1992 年同社に入社、営業職として取引先に「よく来てくれる」としてもらうことが大切だと、地味な仕事にも率先して取り組み、親密な取引先が増えていくにつれ、仕事が面白くなってのめり込んだ。当時同社は、すでに業界内で相応の地位を築いており、営業の経験は自社の強みを肌で感じるきっかけともなった。



同社の経営方針発表会（左）



工務店向けの勉強会で時代の変化への対応力を磨く（右）

住まいづくりのすべてが結集する展示会

同社の原動力は、毎年春と秋に開催する展示会だ。住宅業界の主要メーカーが最新の住宅建材や設備機器を出展、地元の工務店や販売店、施主を含めて数千人規模の来場者を集め、活発な商談が行われる舞台となっている。1976年10月に第1回「丸産業住設建材まつり」を開催し、以後は毎年の恒例行事となった。春に開催する展示会は「すまい展」と呼ばれ、住宅設備メーカーや地元工務店とのつながりの強さを実感し、「住宅業界をもっと良くしたい」という目標を共有する場にもなっている。コロナ禍で展示会の開催自体が減っているが、普段接する機会の少ない顧客の来場もあり、リフォームなどの需要喚起にも効果が表れている。「成熟した社会の中で、新たなビジネスモデルが求められているように思う。言われたことをやっていれば良かった時代はとっくの昔に終わっている。新しい時代の変化を感じ、個々の社員がそれぞれの持ち場でやるべきこと考え、顧客のニーズを思いながら提案していくことが強く求められている」と丸社長は熱く語る。



同社主催の展示会「住設建材まつり」の会場入口（左）
会場内（右）

同社は人材育成にも注力、自己申告制度を採用入れ、半年ごとに上司と部下の間で達成すべき目標や克服すべき課題が話し合われており、若手社員からも率直に意見具申が行われ、活発なやり取りがなされている。ボーナス支給の際には、役員クラスの者ですべての営業所を回り、社員一人ひとりと面談を行っている。「全社一丸となって目指すべきことを一緒に考え前に進んでいくために、会社の方針を社員に的確に伝えること、社員の能力を引き出すことができる上司を育てていきたい」と丸社長は話す。

スポーツへの協賛を通じて地域社会に貢献

同社の念頭には、常に地域社会への貢献がある。

地域における文化・スポーツの振興にも積極的に取り組み、サッカーの奈良クラブやバスケットボールのバンビシャス奈良に協賛している。ユニフォームに自社のロゴが出ていることで社会的な信用が向上し、採用においても応募者の増加につながっている。普段の社員の行動においても姿勢を正すという意識が生まれ、会社がより強くなっていくことが感じられる。

2022年4月には、地元からの要望もあり、同社が奈良県吉野町に所有していた空きビルを改装してサテライトオフィス&コワーキングスペース「YOSHINO GATEWAY（吉野ゲートウェイ）」をオープンさせた。吉野川や吉野山を望む場所に位置することからリラックスした環境で仕事ができると評判を呼んでおり、今後利用が進んで地域の活性化につながることが期待されている。



同社がマッチデースポンサーとなったJFL公式戦（左）
コワーキングスペース&シェアオフィス
「YOSHINO GATEWAY」（右）

「利は元にある」で取引先と共存共栄

丸社長の信念には、「販売先への真摯な営業姿勢と同様、仕入先との関係維持・強化はもっと大切である。仕入先との良好な関係を構築して維持していくことが、企業が持続的に発展していくために重要」という思いがある。「利は元にある」の言葉にあるように、長期的な視点で仕入先との共存共栄の関係を深めようとしている。様々なメーカーと真剣に付き合い、顧客からの苦情や要望にもメーカーと一緒に考えて解決を図っている。「人口減少など様々な社会問題があるが、住宅は生活するために絶対必要であるし、住宅業界をもっといい業界にしていきたい。関西圏の市場開拓の余地はまだある。世の中はどんどん変わっていくと思うが、これからも取引先から頼られる存在でありたい」とさらなる飛躍を目指している。

（大橋 徹）